

分類	セッションテーマ	企画のねらい	対象者（最も重要視するものは◎）	セッション言語	領域
理事長企画	Japan Kidney Summit：総力を結集して腎臓病を克服する	腎臓学会と密接に関連する各学会の代表者から、それぞれの視点での腎臓病に対する見解をいただき、最後に柏原前理事長に今後我々の進むべき道をご指導いただく。	○ 初期研修医 ○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ◎ 腎臓専門医（指導医）	日本語	理事長企画
総会長特別企画1	多臓器間ネットワークによる生体恒常性維持機構を紐解く創発的研究			日本語	総会長特別企画
総会長特別企画2	診療に必須な遺伝性腎疾患の新知見～腎生理からCKDまで～			日本語	総会長特別企画
総会長特別企画3	令和における臨床研究留学－留学をキャリアアップに活かす－			日本語	総会長特別企画
シンポジウム1	糸球体病変に対する新世代治療の可能性と実践方法	近年多数の糸球体・間質疾患の承認されたばかり、あるいは、治験中の薬剤が登場しており実地臨床家は知識のアップデートが必要である。腎臓学会という中立的な環境で、理論的根拠や小規模試験のエビデンス、あるいは使用経験や国内市販後調査結果や海外使用状況について、学際的かつ客観的な論説をしていただく。	○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ◎ 腎臓専門医（指導医） ○ 専門家（領域：膠原病）	日本語	糸球体・尿細管間質疾患（一次性、二次性（DM腎症も含む））
シンポジウム2	ゲノム研究の最先端	ゲノム研究の推進により様々なことがわかっただけでなく、生命現象を理解するための視点が増えてきた。基礎的なゲノム編集技術からバイオインフォマティクスを駆使した解析までをカバーする内容を本企画にてご講演いただく。	○ 学生 ○ 初期研修医 ○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ◎ 腎臓専門医（指導医） ◎ 専門家（領域：ゲノム編集、バイオインフォマティクス）	日本語	基礎医学（発生、実験病理、実験生理、実験免疫）
シンポジウム3	腎臓学を超えて異分野へ波及する水電解質研究	生体内における水電解質の恒常性は主に腎臓によって調節されているが、全身循環とは独立した組織局所の水電解質調節機構の存在も報告されている。組織水電解質調節に関する最新の研究では、腎臓領域を超え、がん、免疫、概日リズム、代謝など様々な領域でその重要性が報告されている。本シンポジウムではその最新知見を共有し、腎専門家に腎臓学を超えて水電解質を考える意義・重要性を提示する。	○ 初期研修医 ○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ◎ 腎臓専門医（指導医） ◎ 専門家	日本語	水電解質・酸塩基平衡、骨ミネラル代謝
シンポジウム4	ESRDにおける電解質・酸塩基平衡障害のトピックス	透析導入期から透析・移植期における電解質異常は病態や様々な干渉要因がダイナミックに変化する時期である。基本的に電解質異常は低値・高値とも有害アウトカムと関連する。昨今新規薬剤（SZC）や従来の概念と反する知見（CKD患者も低Mg血症が多い）が散見され、最近の観察研究・介入研究の知見から適切な管理目標値や治療について講義・議論を行う。	○ 初期研修医 ○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ◎ 腎臓専門医（指導医）	日本語	ESRD（移植含む）
シンポジウム5	日本腎生検レジストリー/日本腎臓病総合レジストリー	2007年から登録が開始されたJ-RBR/J-KDRの年次報告や初期データ10年間のまとめを報告する。次に登録データを活用し、継続して登録実績を有する施設からの公募研究について、尿細管間質性腎炎の実態、感染症関連腎症の臨床像と腎病理所見、腎硬化症における輸入細動脈肥厚と臨床所見・降圧薬の関連、Organized depositを伴う腎症の実態調査について発表を行う。さらに近年注目されている疾患について腎病理医より「Disease of the year 2024」として取り上げ、解説を行う。本企画を通じて、腎臓病の診療と研究、教育における腎生検と腎生検登録の重要性、わが国における腎生検登録の現況、データ活用による研究の進展と診療、教育への応用、近年注目されている疾患の臨床像や病理像の詳細、などに関する知見を得ることが可能である。	○ 学生 ○ 初期研修医 ○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ◎ 腎臓専門医（指導医） ○ 専門家（領域：腎臓内科、腎病理、小児腎臓）	日本語	腎臓病対策委員会（腎臓病レジストリー委員会）
シンポジウム6	腎臓内科医・腎臓小児科医と泌尿器科医で考える腎泌尿器疾患	腎泌尿器科疾患の中でも、透析腎癌や先天性腎尿路奇形（CAKUT）は、腎臓内科、腎臓小児科と泌尿器科にまたがって診療が必要な疾患である。その問題点を提起し、科の垣根なく考察を行うことでより良い診療連携へ繋げていくことを目的とする。	○ 学生 ○ 初期研修医 ○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ◎ 腎臓専門医（指導医）	日本語	小児、遺伝性疾患、嚢胞性疾患、泌尿器疾患

分類	セッションテーマ	企画のねらい	対象者（最も重要視するものは◎）	セッション言語	領域
シンポジウム7	高齢CKD患者における治療戦略を再考する	超高齢社会に伴いCKDの病態も変化している。CKD領域には新しいタイプの薬剤が登場し臨床現場で応用が広がる一方で高齢者CKDに対する治療エビデンスは不足しており最新の知見を含め議論を行う意義がある。	○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ○ 腎臓専門医（指導医）	日本語	高血圧，心血管系
シンポジウム8	CKD普及啓発シンポジウム			日本語	
シンポジウム9	CKDにおける時間医学研究の進歩	近年時計遺伝子が同定され、CKDを含む多くの疾患におけるその病的意義が注目されている。本シンポジウムでは、CKD患者における時計遺伝子異常とその臨床的な意義、合併症との関係についての最新知見について学ぶ機会を得て、次世代の臨床研究や基礎研究につながるセッションにしたい。	○ 学生 ○ 初期研修医 ◎ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ◎ 腎臓専門医（指導医）	日本語	CKD（DM腎症は除く）
シンポジウム10	Aged kidney-高齢者高血圧と腎硬化症の基礎から臨床まで	"腎硬化症"は日常的に用いられる病名であるが一定の定義づけが困難である。腎硬化症の病態理解を深めるために加齢や高血圧に関連した腎障害を臨床、病理、基礎研究など様々な面から再考する。	○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ○ 腎臓専門医（指導医）	日本語	高血圧，心血管系
シンポジウム11	腎移植における内科医の役割	近年、腎移植症例数の増加や予後の長期化とともにさまざまな内科合併症をもつ移植患者を診療する機会が増えてきており、腎臓内科医の参画が求められている。今回、内科医による腎移植医療を考えてみる。	○ 学生 ○ 初期研修医 ◎ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ○ 腎臓専門医（指導医）	日本語	ESRD（移植含む）
シンポジウム12	知っておきたい小児期発症の希少難治性腎疾患	疾患概念や遺伝子診断の普及にとともに、希少難治性腎疾患の診療機会が増加している。しかし、小児期に発症し成人移行する希少腎疾患の認知度はまだ低いと思われ、本シンポジウムで啓発を図る。	○ 学生 ○ 初期研修医 ○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ◎ 腎臓専門医（指導医）	日本語	小児、遺伝性疾患、 嚢胞性疾患、泌尿器疾患
シンポジウム13	新規創薬モダリティが切り開く腎臓病治療の未来	多様な創薬基盤技術を用いた研究開発により、従来の低分子医薬に加え、抗体医薬、核酸医薬、細胞治療などの多様なモダリティに基づく医薬品の実用化が進んでいる。本シンポジウムでは中分子ペプチド医薬や新しいドラッグデリバリーシステムなど創薬開発研究の最先端をご紹介いただく。	○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ○ 腎臓専門医（指導医）	日本語	基礎医学（発生，実験病理，実験生理， 実験免疫）
シンポジウム14	若手研究者のためのESRDデータベース活用術	近年、DOPPS、JRDR、USRDS、Qコホート、東海透析コホートなどさまざまなESRDデータベースが登場し、多くのエビデンスが発信されている。しかし、それぞれのデータベースのルールや詳細、特に若手研究者がアクセスする方法に関しては、必ずしもオープンにはなっていない。本シンポジウムは、若手研究者の参入を促進することを狙いに、それぞれのデータベースについて概説していただく。	○ 初期研修医 ◎ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ◎ 腎臓専門医（指導医）	日本語	ESRD（移植含む）
シンポジウム15	新たな医療Dxで腎臓病診療はどう変わるか？（JSN/JAMI合同委員会企画）	近年、進歩の著しい医療Dxによって腎臓病診療がどう変わっていくのかについて、将来展望も含めて日本医療情報学会と合同で議論し、理解を深める。	○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ○ 腎臓専門医（指導医）	日本語	JSN/JAMI合同企画運営委員会
シンポジウム16	腎臓から考える Bones and stones	腎臓内科の守備範囲として腎移植は一般的になってきたが、その一方で、骨と結石も実は守備範囲であり、海外ではBones and stonesとして知られている。実際の診療のポイントと課題を解説する。	○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ◎ 腎臓専門医（指導医）	日本語	水電解質・酸塩基平衡、骨ミネラル代謝
シンポジウム17	血液疾患と腎疾患の接点を読み解く	骨髄疾患、免疫グロブリン異常を含めた血液疾患に伴う腎疾患の理解を深めることを目的とする。腎臓分野、アミロイドーシス、血液腫瘍内科のそれぞれのエキスパートより古典的な病理診断からアミロイド形成分子メカニズム、最新の分子標的薬によるMGRSの治療まで、本セッションを聴講することで基礎から臨床までの幅広い知識アップデートができることを目指す。	○ 初期研修医 ◎ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ◎ 腎臓専門医（指導医） ○ 専門家（領域：血液内科）	日本語	糸球体・尿細管間質疾患（一次性、二次性（DM腎症も含む））
シンポジウム18	どうする！？水・電解質異常治療のControversy Update	水・電解質異常、酸塩基平衡異常の治療に関するcontroversyについて論点をアップデートし、臨床に役立つ知識を習得する。	○ 初期研修医 ◎ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ○ 腎臓専門医（指導医）	日本語	水電解質・酸塩基平衡、骨ミネラル代謝

分類	セッションテーマ	企画のねらい	対象者（最も重要視するものは◎）	セッション言語	領域
シンポジウム19	ESRD領域の新しい知見－CKD診療ガイドライン2023を踏まえて	CKD診療ガイドライン2023を踏まえて、CKDステージG5/ESRD領域の管理に関して、最新の知見を得る。	○ 初期研修医 ◎ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ○ 腎臓専門医（指導医）	日本語	ESRD（移植含む）
シンポジウム20	空間トランスクリプトーム：腎臓病理学の新たな地平を拓く	このセッションでは、空間トランスクリプトームの最新技術を腎臓病理学に応用することで、形態学だけでは捉えきれない微細な病態変化を明らかにする。具体的には、空間トランスクリプトームを用いた新しい分子遺伝学的診断法の開発、病態解明、治療標的の探索について議論する。このアプローチにより、腎臓病の診断と治療における新たな可能性を探る。	◎ 腎臓専門医（指導医） ◎ 専門家（領域：病理学、バイオインフォマティクス）	日本語	基礎医学（発生、実験病理、実験生理、実験免疫）
シンポジウム21	健康・病態におけるカリウム/ナトリウムバランスの重要性を再考する	電解質異常による病態といえば、「ナトリウム異常」を想像しやすいが、最近の研究では、健康・病態におけるカリウムの役割・重要性も新たな知見が報告されている。ナトリウムそしてカリウムに関わる最新の研究を解説し、カリウム/ナトリウムバランスを新たな視点から捉える。	○ 初期研修医 ○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ◎ 腎臓専門医（指導医） ○ 専門家	日本語	水電解質・酸塩基平衡、骨ミネラル代謝
シンポジウム22	多発性嚢胞腎の最新知見～基礎から臨床まで～	ADPKDは遺伝性腎疾患で最も多く、腎臓内科の診療では必須の疾患となっている。臨床、研究の両面から最新の知識を得るためにこのシンポジウムを提案する。	○ 学生 ○ 初期研修医 ○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ◎ 腎臓専門医（指導医）	日本語	小児、遺伝性疾患、嚢胞性疾患、泌尿器疾患
シンポジウム23	CKDにおける慢性炎症と臓器機能障害	CKD患者は種々の原因によって慢性炎症の状態にあり、心血管合併症をはじめとした多くの併存疾患のリスクが高い。近年、IL-1RやIL-6などのサイトカインを標的にした抗体医薬に関する臨床試験が日本および海外において進行中で、心血管合併症や貧血に対する治療効果が期待されている。CKD患者の炎症の原因は多岐にわたり、サイトカインを標的にした治療は、炎症に関連した病態の多面的な改善が期待される。今回の企画では特に炎症に関連が深い病態や合併症に関する最新の知見を統合し、CKD患者の新しい治療について理解を深める。	○ 学生 ○ 初期研修医 ◎ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ◎ 腎臓専門医（指導医）	日本語	CKD（DM腎症は除く）
シンポジウム24	腎臓病療養指導士が活躍できるためのチーム医療体制整備に向けた取り組み ※腎臓病療養指導士単位対象企画	2024年の診療報酬改定においてCKD患者への生活指導に関連した診療報酬加算がつくであろうと言われている。この指導介入には、腎臓病療養指導士が中心になって医師やコメディカルとともにチームを組んで、患者のCKD進展予防や重症化予防に携わっていく。そのアウトカムとして、患者のQOLを向上させ、さらには2028年までに新規透析導入患者数の減少（35000人以下）を目指していく。そのためには施設における腎臓病療養指導士の活躍が重要で組織の中でいかにCKD患者を支えていくかが焦点になる。新規で診療報酬加算がつくことを前提に腎臓病療養指導士が中心になってどのようなチーム医療編成をしているか情報共有できる場となるのがねらいである。	○ 腎臓専門医（指導医） ○ 専門家（領域：コメディカル）	日本語	多職種・患者会
シンポジウム25	多職種でみる遺伝性腎疾患	遺伝性腎疾患の診療において、遺伝子診断、遺伝カウンセリング、本人や家族のケア、など多くの課題があり、多職種の連携が大切である。また、遺伝性腎疾患であっても遺伝子診断が保険収載されていないなどの問題もある。将来に向けて着床前診断や出生前診断も重要な課題であり、これらのことを専門家に情報提供してもらい、考えていく。	○ 学生 ○ 初期研修医 ○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ◎ 腎臓専門医（指導医）	日本語	小児、遺伝性疾患、嚢胞性疾患、泌尿器疾患
シンポジウム26	重要病態の輸液 アップデート	輸液は病態ごとに注意するポイントがある、最近のエビデンスをもとに輸液の解説を行う。初期研修医や内科専攻医にも興味のある領域であり、腎臓内科の魅力を伝える。	○ 学生 ◎ 初期研修医 ◎ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ◎ 腎臓専門医（指導医）	日本語	水電解質・酸塩基平衡、骨ミネラル代謝
シンポジウム27	我が国のDKD診療を再考する	1998年に我が国の透析導入現疾患と第1位となったDKDですが、徐々にその予後は改善しつつある。さらにその予後を改善させ、完全なる克服に向かうにあたり、今の現状を把握し、この先の課題を共有する場を設ける。	○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ◎ 腎臓専門医（指導医） ○ 専門家（領域：糖尿病）	日本語	糸球体・尿細管間質疾患（一次性、二次性（DM腎症も含む））

分類	セッションテーマ	企画のねらい	対象者（最も重要視するものは◎）	セッション言語	領域
シンポジウム28	ESRDにおける利尿薬の使い方 (CKD G5, HD, PD, 腎移植後)	腎臓内科医にとって利尿薬の使用頻用は高いが、特にESRD患者におけるエビデンスは少なく、投与量・期間・種類などが経験で投与されていると推測される。多くは体液過剰に対する使用であるが、降圧薬として、カリウム保持薬としても使用される。血液透析患者に漫然と利尿薬が処方されているケースも散見される。本シンポジウムでは利尿薬のPK/PDを考慮して、各ESRD modalityやステージ毎での利尿薬使用のポイントやtipsについて講演をいただく。	○ 初期研修医 ○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ◎ 腎臓専門医（指導医）	日本語	ESRD（移植含む）
シンポジウム29	保存期から透析期へ：CKD診療における至適transitionを考える (JSN/JSOT共同事業企画運営委員会企画)	CKD患者は保存期から透析期への移行において、療養法が大きく変わると同時に腎臓専門医から透析専門医へと担当医も交代することから様々なレベルでのギャップが生じるリスクがある。そのギャップを最小化するために両専門医間で議論し理解を深める。	○ 初期研修医 ○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ○ 腎臓専門医（指導医） ○ 専門家（領域：透析専門医）	日本語	JSN/JSOT共同事業企画委員会
ワークショップ1	非糖尿病心腎疾患におけるSGLT阻害薬の作用メカニズムを考える	SLGT2阻害薬の非糖尿病心腎管および腎疾患に対する心腎保護作用は明らかになっているが、作用メカニズムについては未だ不明な点が多い。SGLT2阻害薬の心腎作用メカニズムについて議論する。	○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ○ 腎臓専門医（指導医）	日本語	高血圧, 心血管系
ワークショップ2	糸球体疾患における適正な遺伝子検索について	遺伝子検索を行うかどうか、臨床的に判断に迷うケースは多い。2022年にアルポート症候群における遺伝子検索の目安についてガイドラインが更新された。臨床医にとって広く有用な知見と考えられ、小児科、内科の両面から解説いただく。	○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ◎ 腎臓専門医（指導医） ○ 専門家（領域：小児科）	日本語	糸球体・尿細管間質疾患（一次性、二次性（DM腎症も含む））
ワークショップ3	ダイバーシティあふれるAKI臨床	急性腎障害（AKI）という共通の診断基準が誕生して以来、AKIの概念そのものも広く認知されるようになり、AKIの研究は腎臓内科医だけでなく様々な領域から行われるようになった。そこで、AKIに関する臨床面での研究を中心に、様々な分野からご自身の研究内容をご発表いただく。	○ 初期研修医 ○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ○ 腎臓専門医（指導医） ○ 専門家	日本語	AKI
ワークショップ4	生物のユニークな体液調節から学ぶ、そして応用する	医学分野の研究では、一般的にヒトや齧歯類を対象とした研究が行われるが、他生物の研究分野においても体液調節に関連した研究が盛んに行われている。ヒトや齧歯類以外を対象とした研究者と、日本腎臓学会の研究者が会合する機会を設けることで、新たなコラボレーションや異分野融合によるブレイクスルーを狙い、体液研究を推進する。	○ 初期研修医 ○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ◎ 腎臓専門医（指導医） ◎ 専門家	日本語	水電解質・酸塩基平衡、骨ミネラル代謝
ワークショップ5	日本の臨床研究をどのように推進すべきか？	これからの本邦における腎臓領域の臨床研究を推進する意義、ストラテジーについて議論する。	○ 学生 ○ 初期研修医 ◎ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ○ 腎臓専門医（指導医） ○ 専門家	日本語	学術委員会
ワークショップ6	組織的に展開する腎臓領域の医療安全推進	医療安全は学会員にとって必須の事項、昨年は腎臓内科医が直面するインシデントなどをとりあげた。今回は組織的に病院の管理職のあり方、医薬連携による安全性の向上を薬剤師の立場から、CVC挿入の指導者から、正しい手技の教え方あるいは覚え方、および改訂予定の透析医療の安全マニュアルの要点などで組みました。	○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ○ 腎臓専門医（指導医）	日本語	企画・渉外委員会
ワークショップ7	ICTは急性期の腎臓診療に変革をもたらすか？	ICTの発展は目覚ましく、医療においては画像診断や病理診断分野を中心に有用性が報告されている。一方で、腎臓分野でICTがどのような新たな役割を果たしていくかは、不透明な部分が多く、今後の発展が非常に期待される。ここでは、腎臓の急性期診療を中心にして、ICTがどのような変革をもたらすか、エキスパートの先生方に議論をしていただく。	○ 初期研修医 ○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ○ 腎臓専門医（指導医） ○ 専門家	日本語	AKI
ワークショップ8	CKD診療ガイド2024の改訂ポイント	2012年以来、12年ぶりに改訂された診療ガイドについて、改訂ポイントを中心に解説する。特に、CKD診療ガイドライン2023との使い分け、KDIGOガイドラインとの相違点、さらにエビデンスが不十分だが重要な臨床課題などについて実践的な観点から議論する。	○ 初期研修医 ○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ○ 腎臓専門医（指導医） ◎ 専門家（かかりつけ医、コメディカル、腎臓以外の専門医）	日本語	学術委員会（CKD診療ガイドライン改訂準備委員会）

分類	セッションテーマ	企画のねらい	対象者（最も重要視するものは◎）	セッション言語	領域
ワークショップ9	CKD健康長寿のための腎臓リハビリテーション（日本腎臓リハビリテーション学会合同企画）	CKD患者のサルコペニア・フレイルは重症化やQOL低下につながる重要な問題であり、すべてのCKDステージ患者においてサルコペニア・フレイルを予防し対策を講じる必要がある。また透析時運動指導等加算の設置により透析患者の腎臓リハビリテーションも浸透してきている。本セッションでは様々な職種の視点から健康長寿を目指した腎臓リハビリテーションの講演と意見交換をいただき診療での実践につなげていただきたい。	○ 学生 ○ 初期研修医 ◎ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ◎ 腎臓専門医（指導医）	日本語	CKD（DM腎症は除く）
ワークショップ10	SDMに関わるひとたちの本音を聞いてみよう	実際にSDMに関わっている職種・患者さんの気持ちを聞くことにより、これからの療法選択を考えていただく。	○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ○ 腎臓専門医（指導医） ○ 専門家（領域：腎臓病療養指導士）	日本語	多職種・患者会
教育企画	臨床研究ことはじめセミナー	これから腎臓領域の臨床研究を始める会員たちに、講演と質疑応答を通じて臨床研究を推進する価値を理解してもらい、自身の研究の質の向上や研究中に生じた疑問の解決に活用してもらう。	○ 学生 ○ 初期研修医 ◎ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ○ 腎臓専門医（指導医）	日本語	学術委員会
教育講演1	AKIの病態機序解明に迫る！	AKIの治療薬の発見が難しい原因として、AKIを起こす原因としては様々な病態が挙げられ、単一な疾患群ではないことが考えられる。そこで、ここでは各AKI領域の第一人者の先生方から最新の知見をご発表いただき、今後のAKI研究の可能性について理解を深める。	○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ○ 腎臓専門医（指導医） ○ 専門家	日本語	AKI
教育講演2	医療経済評価の考え方と手法		○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ○ 腎臓専門医（指導医）	日本語	学術委員会
教育講演3	CKDにおける骨代謝			日本語	CKD（DM腎症は除く）
教育講演4	CKDステージ5における療養指導としての運動療法と栄養療法 Update	CKD診療特にCKDステージG5/ESRD領域における運動療法とそれを補完する栄養指導の最新の話題について議論する機会を設けたい。	○ 初期研修医 ◎ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ○ 腎臓専門医（指導医）	日本語	ESRD（移植含む）
教育講演5	Advanced CKD/ESRDにおける骨粗鬆症治療	近年、骨粗鬆症に対する薬剤が増え、CKDでもよく使われるようになってきているように感じます。ただCKDではエビデンスは十分ではなく、リスクもあること、しかしながら骨折のリスクは高いことから、その使用は慎重に行う必要があるものの、どのように使うべきか考える必要があるように思います。本企画では、慢性腎臓病患者に対して、骨粗鬆症薬をどのように考えるべきか講演していただくと考えました。	○ 初期研修医 ◎ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ◎ 腎臓専門医（指導医）	日本語	ESRD（移植含む）
教育講演6	SLEの治療目標と活動性評価～ループス腎炎管理も含めて～	分子メカニズムを踏まえたSLEの最先端治療と活動性評価についてご講演いただく。さらに2024年にアップデートが予定されているEULARのガイドラインについても触れていただき、最新の考え方について学ぶ機会とすることを目的とする。	○ 初期研修医 ◎ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ◎ 腎臓専門医（指導医）	日本語	糸球体・尿管間質疾患（一次性、二次性（DM腎症も含む））
教育講演7	体液貯留の病態と治療	体液貯留は様々な病態でみられ、その病態の多くが腎機能を障害する。病態別のメカニズムとその治療法について議論する。	○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ○ 腎臓専門医（指導医）	日本語	高血圧、心血管系
教育講演8	CKD G5期から透析導入期におけるSGLT2阻害薬・MRB・ARNIの使用継続・中止の考え方	この数年の新規薬剤（SGLT2阻害薬、MRB、ARNI）のCKD進展抑制に対するエビデンスの集積と、それに呼応する実臨床での使用量は右肩上がりである。一方で内的妥当性が高いRCTで得られた知見を目の前の患者へ適応する際に注意する事もある。SGLT2阻害薬やMRBはCKDG5期に新規に開始することは少ないと考えるが、使用継続する際の注意点やAKI発症時の対応、透析導入後の中止・継続の考え方など本教育講演ではCKD G5期に絞った議論を行なっていただく。	○ 初期研修医 ○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ◎ 腎臓専門医（指導医）	日本語	ESRD（移植含む）
教育講演9	小児IgA血管炎診療ガイドライン2023	IgA血管炎は小児期には比較的多く遭遇する疾患で重症度、合併症、依存症に多様性があり、その治療に苦慮することも少なくない。今回日本小児腎臓病学会が中心となり、他学会の協力を得て学会横断的にガイドラインが作成されたため、現時点での最新の情報を共有したい。	○ 学生 ○ 初期研修医 ○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ◎ 腎臓専門医（指導医）	日本語	小児、遺伝性疾患、嚢胞性疾患、泌尿器疾患

分類	セッションテーマ	企画のねらい	対象者（最も重要視するものは◎）	セッション言語	領域
教育講演10	世界から発信された日本人によるAKI研究	AKIというKey wordが確立されて以来、基礎研究においても臨床研究においても様々な知見が積み重ねられている。ここでは、海外でPIとして活躍されている日本人研究者に、AKIの基礎研究における最新の知見をご講演いただく。	○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ○ 腎臓専門医（指導医） ○ 専門家	日本語	AKI
教育講演11	腎疾患患者の緩和医療と医療倫理（仮）（研究倫理・医療倫理に関する研修会）	日本腎臓学会会員に対しての医療倫理講習を実施	○ 学生 ○ 初期研修医 ○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ○ 腎臓専門医（指導医） ○ 専門家	日本語	倫理委員会
教育講演12	糸球体・尿細管間質疾患の新たな病態	微小変化型ネフローゼの病因については、これまで様々な説が提唱されつつも断定的とは言えなかった。2022年米国Wattsらが、病態として、抗ネフリン抗体の存在を明らかにした。本邦では、神戸大学小児科の堀之内らが小児患者において追試を行い、約半数において、抗ネフリン抗体が認められることを報告した。また我が国から提唱されたIgMPCTINの情報に関するUPDATEをいただく。病態解明のプレイクスルーとしては大きな話題となる。	○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ◎ 腎臓専門医（指導医）	日本語	糸球体・尿細管間質疾患（一次性、二次性（DM腎症も含む））
教育講演13	オミックス解析を腎臓病研究に生かす			日本語	基礎医学（発生，実験病理，実験生理，実験免疫）
教育講演14	研究者のための画像処理セミナー	研究から得られる膨大な画像データの処理も研究者の重要な仕事である。このセッションでは研究者が心得ておくべき適正な画像処理についてご講演いただく。	○ 学生 ○ 初期研修医 ◎ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ◎ 腎臓専門医（指導医）	日本語	基礎医学（発生，実験病理，実験生理，実験免疫）
教育講演15	初学者のための遺伝子変異に伴う電解質酸塩基平衡異常（成人編）	遺伝子変異に伴う電解質酸塩基異常は疑うことは重要である。特に成人患者で遭遇した場合、その解析結果の解釈と診療において腎臓内科医が知っておくべき変異と病態について解説を行う。	○ 学生 ◎ 初期研修医 ◎ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ◎ 腎臓専門医（指導医）	日本語	水電解質・酸塩基平衡、骨ミネラル代謝
教育講演16	糸球体・間質疾患の臨床実践にまつわる新知見	糸球体・間質疾患の大規模なデータベースに基づく客観的な国内の診療現況について解説していただく。そして糸球体・間質疾患の分野において、近い将来の診断応用が期待される新知見・技法を発表していただく。	○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ◎ 腎臓専門医（指導医）	日本語	糸球体・尿細管間質疾患（一次性、二次性（DM腎症も含む））
腎臓指導医講習会				日本語	教育専門医制度委員会
ダイバーシティ推進委員会企画	学会活動のダイバース	学会参加の目的は会員それぞれに異なります。もちろん一番の目的は最新の知識を得て腎臓学の進歩に寄与し社会貢献することですが、昨今の学会活動は多様性に富んでいます。研究発表以外のさまざまな学会活動に寄与されている会員の方々に学会活動の多様性についてお話をいただき、多くの会員に様々な学会活動に興味を持ってもらい将来参加していただくことにつなげたい。	○ 学生 ○ 初期研修医 ○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ◎ 腎臓専門医（指導医）	日本語	ダイバーシティ推進委員会
招請講演1	UMOD and the Genetic Architecture of Kidney Disease			英語	総会長特別企画
招請講演2	塩欲求と食欲を制御する神経回路による体液恒常性			日本語	総会長特別企画
招請講演3	Road to Phase I Clinical Trials of Pig-to-Human Kidney Xenotransplantation: Making the ImPossible Possible			英語	総会長特別企画

分類	セッションテーマ	企画のねらい	対象者（最も重要視するものは◎）	セッション言語	領域
特別講演	スポーツを通じたライフパフォーマンスの向上のための取組			日本語	総会長特別企画
理事長講演	腎臓病学と腎臓学会の現況と未来			日本語	理事長企画
会長講演	ワクワクする研究していますか？させてますか？			日本語	総会長特別企画
Asian Session・APSN CME Joint Symposium				英語	国際委員会
JSN/ASN Joint Symposium				英語	国際委員会
JSN/ERA Joint Symposium				英語	国際委員会
JSN/ISN Joint Symposium				英語	国際委員会
JSN/KDIGO Joint Symposium				英語	国際委員会
大島賞受賞講演				英語	学会主導
CSA（Clinical Scientist Award）受賞講演				英語	学会主導
YIA（Young Investigator Award）受賞講演				英語	学会主導
ハンズオンセミナー				日本語	学会主導